

Identifying the Motivating Factors Influencing the Enjoyment of Kendo by International Practitioners: A Study to Support International Kendo Adoption and Growth

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩本, 貴光 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003280

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 63 号

Identifying the Motivating Factors Influencing the Enjoyment of Kendo by International Practitioners: A Study to Support International Kendo Adoption and Growth

(世界剣士が感じる剣道の楽しさの動機要因：国際剣道の普及発展に向けて)

岩本 貴光 (いわもと たかみつ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

背景と研究目的：国際剣道連盟は、剣道の国際的普及振興をはかり、加盟団体相互の信頼と友情を培うことを目的としている。国際的な剣道実践者の意識調査は、局地的な対象を取りあげ報告が行われてきた。しかし、剣道を行う上で楽しさに特化した文献は少なく、世界を地理学的に六つの州に区分した六大州を網羅した調査・研究は見当たらない。世界全体の剣道実践者がどのような点に楽しみを感じ実践しているのかを探ることは、今後の世界普及・発展に欠かせない事だと考えられる。そこで本研究では、世界の剣道実践者が剣道に感じる楽しさを調査する質問紙を作成し、調査による意識構造の解明を試みることを目的とした。

方法：継続的に剣道を実践している 18 歳以上の 1,005 名を対象者とした。その内訳は、日本を除く国々の剣士 769 名、日本の剣士 236 名である。質問項目は、日本以外で剣道を実践し日本国籍を持たない 5 か国の剣士 20 名に対し、剣道実践で感じる楽しさを自由記述により回答を求めた。全回答数の 200 記述を日本人剣士 3 名（各剣道 7 段）が検討し、40 項目を抽出した。抽出された 40 項目に対し、5 段階評定尺度でアンケート調査及び WEB 調査により調査を行った。回答については、平均値と標準偏差を算出し、それぞれの測定尺度において因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行い、因子を抽出した。その後、各因子の解釈を行い、因子ごとに因子得点を算出した。さらに、外国人剣士と日本人剣士との比較を行うためそれぞれの因子、項目ごとに t 検定を行い、5%水準未満をもって有意とした。

結果：質問紙は、「技能向上」に関する因子、「生きがい」に関する因子、「繋がり」に関する因子、「廉直さ」に関する 4 因子で構成されていた。各因子得点については、世界剣士と日本剣士の間での比較では「生きがい」と「廉直さ」については、世界剣士が日本剣士より高い値を示し、「技能向上」と「繋がり」については、日本剣士が世界剣士より高い値を示した。世界剣士と日本剣士の 2 群の比較した結果は、世界剣士が日本剣士より高値を示したのは 17 項目であり、日本剣士が世界剣士より高値を示したのは 18 項目であった。

結論：世界の剣道実践者が剣道に感じる楽しさの意識構造には、「技能向上」「生きがい」「繋がり」「廉直さ」の4因子が抽出された。また、世界剣士は剣道を武道として捉え、生きがいとして文化的観念を学ぶ意欲を持って取り組んでいることが明らかになった。この結果は、今後の剣道の普及・発展に向けた方策を検討する重要な手がかりになると考えられる。